

1.計画名称

縄文プロジェクト

2.計画全体の進捗状況及び総合評価

進捗評価	おおむね順調	説明	各部署において、縄文を生かした取組を行っており、縄文プロジェクト実行市民会議で情報共有を図っている。縄文プロジェクトHPへのアクセス数や縄文ふるさと大使の増加、女神のクールビズの浸透など、各施策によっては効果が出ている。
今後の重点化施策番号	1	説明	現在の各施策の継続と、さらに、縄文文化の精神性と縄文文化遺産をまちづくりに活かすための施策を行う必要がある。

3.各施策等における評価内容と改革改善

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
1	縄文プロジェクトの推進	おおむね順調	縄文プロジェクトの取組により、縄文文化をまちづくりに生かす取組が根付いてきている。長野・山梨の関係14市町村で構成した縄文文化圏が日本遺産に認定された。	縄文プロジェクトへの関心は決して高くない。全市民の方に取組を認識し、興味をもっていただけのような施策を展開していく必要がある。	現在の取組は継続していくが、縄文プロジェクトを再認識し、縄文の精神性を常に意識した各部署での取組について、各部署で協議・共有し、まちづくりにつなげていく。
2					
3					
4					
5					

※5つ以上の場合は裏面へ

4.関連市民団体等の主な意見及び対応のポイント

		主な意見	市の考えや対応など
関連市民団体等名称	縄文プロジェクト実行市民会議	<p>各部署で、今行っている事業の中に、「支え合いや助け合いの心」「自然との共生」「知恵と工夫」などといった、縄文人の精神性を根拠としている意識が見えない。様々な事業が縄文プロジェクトとして認識されていなかった。縄文人に学び、事業に位置付け今後取り組んでいくべきである。日本文化の縄文人生活が、今の生活の中にあると考えている。ただ、まだ縄文が身近ではない。縄文プロジェクトの中で、自分たちの中にある縄文とは何かを証拠として並べていけば身近になると思う。</p>	<p>現在の事業の継続と、更なる縄文を活かした茅野市のまちづくりを展開していく。第1回八ヶ岳JOMONライフフェスティバルに向け、縄文文化の発信とあわせて、茅野市の認知度を高めるよう努める。</p>
開催回数	1		
参加延べ人数	45		
関連市民団体等名称			
開催回数			
参加延べ人数			

5.添付資料

別紙「施策評価シート」